

水稻の生育状況について⑥

令和6年8月2日

常陸太田地域農業改良普及センター

1 気象について(日立市)

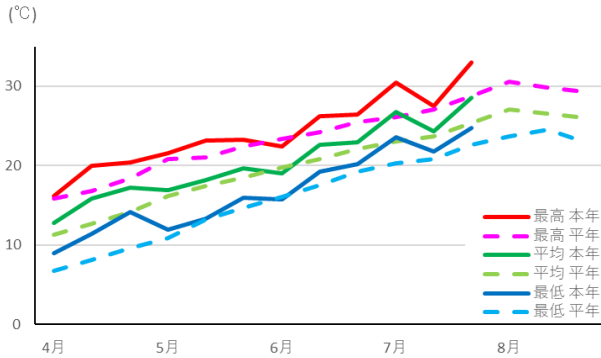


図1 気温の推移

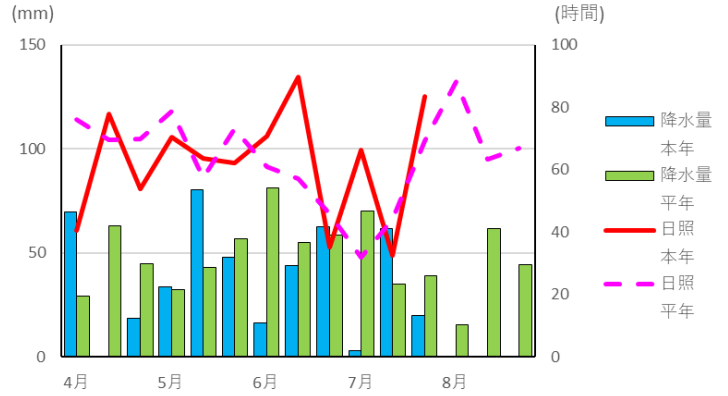


図2 降水量と日照時間の推移

・7月の気象は、気温は中旬は平年並みだったものの、上・下旬は非常に高温で推移しました。降水量は局所的な雷雨による地域差はあるものの全体的に少雨傾向でした。日照については、梅雨明け以降は好天により非常に多照で推移しました。

・水戸地方気象台の発表では、8月の気温も高い～かなり高い日が続く予報が出ています。

2 水稻(コシヒカリ)の生育状況について

・本年は非常に高温で推移しているため、水稻の生育が進んでいます。北茨城市の出穂期は平年より6日早い7月26日でした。

・今後の水管理は間断かんがい(入水後は3～4日程度止水管理し、水が抜けたら1～2日後に入水)を繰り返し、田面を乾かし過ぎないようにします。また、出穂後から開花時期にかけて高温の乾いた風を受けると不稔になる場合もありますので、水田を湛水し乾燥させないようにします。水田に張った水の温度が温まりすぎている場合は、用水を入れ替えることで水田内の温度を下げる効果もあります。

・茨城県病害虫防除所から斑点米カメムシ類に関する注意報が出ています。本年の発生量は多くなっています。斑点米及び不稔米防止のため、カメムシ類の適期防除(出穂期～穂揃い期、乳熟期)に心がけましょう。1回目の防除だけで発生を抑えられない場合は、2回目の殺虫剤散布を検討して下さい。

・今年はクモヘリカメムシやホソハリカメムシ等の他、イネカメムシの被害が懸念されています。イネカメムシは不稔米発生の原因になり、減収につながります。

調査地点	移植日	出穂期
北茨城市	5月4日	7月26日
関本町関本中	(5月2日)	(8月1日)
常陸太田市	5月4日	7月23日
天神林町	(4月26日)	(7月27日)

注：カッコ内は過去5年間(R1-5)の平均値



図 穂を加害する代表的な斑点米カメムシ類

①クモヘリカメムシ ②イネカメムシ